



園 だ よ り

令和8年 3月号 認定こども園 長者幼稚園
Tel 45-1941 fax 45-1943
ホームページ<http://choja-youchien.com/>

2026/2/27 発行



ミラノ・コルティナ オリンピック あきらめたらそこで試合終了

園長 田村 元

八戸に春を告げるえんぶりが行われ、本園のこども達も何人かはえんぶり組に参加して張り切って踊っていました。寒さを吹き飛ばす見事な演技に感動しました。関東地方では「春一番」が吹き、日差しも目にまぶしく暖かく感じられるようになってきました。

さて、冬のミラノ・コルティナオリンピックが開催されました。今回のオリンピックは過去最多24個のメダルを獲得するなど日本人選手の活躍が光りました。高市首相からは『記録的な快挙もさることながら、今大会で、選手の皆様が繰り広げられた熱戦の数々には、怪我をしても、ひたむきに努力を積み重ね、大舞台で成果を発揮する姿、失敗を恐れず、自らを信じ、持てる力を最大限発揮しようとする姿、仲間を信じ、助け合い、最後まで諦めずに全力を尽くす姿、ライバルとしのぎを削りながらも、お互いを褒め称え合う姿があり、改めてスポーツの尊さを強く実感する、記憶に残る大会でもありました』というメッセージが届けられました。史上最年少17歳で初の女子フィギュアスケート銅メダルという快挙を成し遂げた中井亜美選手。女子ジャンプのパイオニア（先駆者）と言われながらも、苦しみ続けた高梨沙羅選手の涙と笑顔のジャンプ混合団体での銅メダル、そして、りくりゅうペア（三浦璃来・木原龍一ペア）の感動的なフリー演技。前日のショートプログラム5位というプレッシャーを撥ね除け、フリーでは最高の演技を披露してくれました。演技を終え、満足感から涙を浮かべた木原選手の表情に、私も思わず目頭が熱くなりました。『あきらめたらそこで試合終了』は大ヒットした漫画『スラムダンク』での安西先生の言葉ですが、怪我や苦境を乗り越えて演技するりくりゅうペアの心の強さを表すのにぴったりの言葉ではないでしょうか。アスリートの皆さんから勇気とたくましさを与えてもらったオリンピックでした。

いよいよあと12日で卒園式です。別れと出会いの春、みんなで過ごせる期間も残りわずかとなりました。年長ひまわり組は小学校への就学準備、そして、年中組からくるみハウスのこども達は進級し、一つお兄さん・お姉さんになるという自覚を高める月となります。職員一同、こどもたちの1年間を振り返り、できるようになったことの成長を認め、励まし、新しいクラスへの期待を膨らませていきたいと思ひます。

